

カブ
(アブラナ科)

滋賀県には多くの色カブが残っており、漬物に使われている。根が浅いので、生育中は乾燥させないこと。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
大カブ 秋まき										○ 播種		■ 収穫	
小カブ 秋まき										○ 播種	■ 収穫		■ 収穫
小カブ 春まき				○ 播種	■ 収穫								

1) 適地

排水のよい、弱酸性の軽い土が適します。大カブは生育期間が長いので、肥沃な土が適します。また、アブラナ科の野菜の中でも根こぶ病に弱いので、連作せず、根こぶ病の出ていない場所を選びます。

2) 品種

白の小カブ、大カブ、地方色豊かな多数の色カブがあります。本県産では、日野菜と万木（ゆるぎ）カブが代表的な色カブで、園芸店で購入できます。特に、万木カブは根こぶ病に強い性質をもった新しい品種が県農業試験場で育成され、「近江万木カブ」として市販されています。また、矢島カブ（守山）、小泉カブ（彦根）、赤丸カブ（米原）、近江カブ（大津）、北之庄菜（近江八幡）などは、今でも地元で自家採種され、昔ながらの形・色・味が受け継がれています。



北之庄菜

小カブ：金町、樋の口、耐病ひかり

大カブ：聖護院、早生大蕪、CR京の味

色カブ：日野菜、北之庄菜、万木カブ、近江万木カブ

3) 作り方

【圃場の準備】1 m² 当たり堆肥 2 kg、苦土石灰 100 g、BMようりん 30 g を施用し、よく耕します。播種の1週間前には、基肥として高度化成肥料を1 m² 当たり 60 g 入れます。

【播種】小カブは8月下旬～10月上旬、大カブでは9月上旬が播き時です。無理な早播きは害虫が多発するうえ、すぐにす入りになります。小カブは条間 40cm の2条に条播きし、大カブは株間 40cm、条間 50cm の2条、点播き（1穴3～4粒）にします。また、日野菜は条間 20cm の2条、条播きとします。カブの種子は発芽がよいので、播きすぎないようにしましょう。春作では3月下旬～4月中旬に小カブを播くことができますが、気温の低い時期であるため、播種後はベタがけやトンネルなどをしてお

くとトウ立ちを防止できます。

【間引き】大カブは子葉が展開したとき、本葉2～3枚のとき、本葉6～7枚のときの3回に分けて行います。小カブは、子葉が展開したとき1～2cm 間隔に本葉2～3枚のとき5～6cm に、本葉5枚のとき最終 10cm の株間となるようにします。日野菜も小カブと同じく3回に分けて行い、最終の株間は12～15cm とします。小カブを中カブまで大きくしたい場合は、本葉6～7枚で20cm 間隔にします。

【追肥・土寄せ】小カブは最終の間引き後に、1 m² 当たり高度化成肥料を 20 g 条間に施します。大カブは間引きするごとに小カブと同量を施用します。追肥をしたら除草をかねて軽く表土を耕し、株元に土を寄せておきます。

【収穫】秋播きの小カブは直径4～5cm、日野菜は直径2.5cm、大カブは15cm に太ったころ収穫します。春播きの小カブでは、暖かくなるにつれ抽台してきますので、10円玉ぐらいの大きさから順次収穫するとよいでしょう。収穫が遅れるとす入りや裂根が生じます。

4) 病害虫防除

カブは根こぶ病の出やすい野菜です。根こぶ病の心配があるところでは、新しいところでつくります。また、根こぶ病に抵抗性のある品種（品種名の前に「CR」と記載されています）を選び、遅く播くといくらか被害を軽減できます。播種前には必ず根こぶ病防除のための薬剤を土壌に混合しておきます。害虫では、アブラムシ類、カブラハバチ、ヨトウムシ類が付きやすいので、早めに防除します。



ホウ素欠乏

生理障害としては、ホウ素欠乏がよく出る野菜です。播種が早すぎたりすると出やすいので、極端な早播きは避けるようにします。



日野菜



大カブ